

日本機械学会におけるリスク情報活用の取組み

- 2021/12に原子力専門委員会活動方針を発行
- 規格高度化に向けた7つの活動項目の1つとして「リスク情報を提供するための評価手法の開発」を抽出
- 具体的な活動として次の2項目をリストアップ
 - ◆ RI-ISI* 手法の規格化 → リスク情報活用検討タスク
 - ✓ 米国等の海外情報を調査し、今後3年程度でRI-ISI規格化に向けた事例検討を実施
 - ✓ 他学協会のリスク関係者にもオブザーバ参加いただき活動予定
 - ◆ システム化規格概念の導入 → 目標信頼性検討タスク
 - ✓ 2019年から3年程度の検討を経て、目標信頼性に基づく構造評価ガイドライン案を策定
 - ✓ 原子力学会リスク専門家をタスクメンバーに迎えて活動実施

(参考)システム化規格の概念

規格基準に含まれる幾つかの技術項目の間で余裕を相互交換可能にすることにより、余裕の重複を避け、過剰な余裕を適正な水準に合理的に設定することを目標とする、柔軟な規格基準体系。

